

■ちーびし

○執筆者紹介

①生年・出身地, ②所属, ③専門領域, ④研究業績, ⑤奄美と関係した活動の順番で掲載しております。

■北村 良介 (きたむら りょうすけ)

- ①1947年・京都府
- ②工学部海洋土木工学科環境システム工学講座教授
- ③地盤工学, 不飽和土質力学, 防災工学, 火山工学
- ④1) 小島尚人, 北村良介, 大林成行, 伊代田尚志: 衛星リモートセンシングデータを導入したシラス自然斜面の崩壊危険箇所評価精度の向上, 土木学会論文報告集, No.707/VI-55, pp.165-176, 2002.6.
- 2) 北村良介: 降雨に伴う土砂災害に対する防災技術の現状と将来展望, 土と基礎, 51-1, pp.22-25, 2004.1.
- 3) 北村良介: 論説: 火山工学の必要性和課題, 土木学会誌, Vol.89, No.7, pp.8-9, 2004.7.

■中野 裕二郎 (なかの ゆうじろう)

- ①1980年・京都府
- ②理工学研究科海洋土木工学専攻院生
- ③地盤工学, 不飽和土質力学
- ④1) 中野裕二郎, 酒匂一成, 荒木功平, 北村良介: パイピング現象に関する微視的考察, 第38回地盤工学研究発表会, pp.1249-1250, 2003.7.
- 2) 北村良介, 牛嶋國雄, 中野裕二郎: 水俣市宝川内で採取した試料の土質試験結果について, 平成15年度自然災害西部地区部会・研究発表会, pp.73-76, 2004.2.
- 3) 中野裕二郎, 酒匂一成, 北村良介: シラスの保水性に関する一考察, 第39回地盤工学研究発表会, pp.1225-1226, 2004.7.

■深見 健一 (ふかみ けんいち)

- ①1981年・京都府

- ②理工学研究科海洋土木工学専攻院生

■皆村 武一 (みなむら たけいち)

- ①1945年・鹿児島県
- ②法文学部経済情報学科国際協力講座教授
- ③イタリアおよび日本経済の比較研究, 伝統社会の研究, 奄美経済の研究
- ④著書
『奄美近代経済社会論』(晃洋書房, 1988年)
『戦後日本の形成と発展』(日本経済評論社, 1995年)
『戦後奄美経済社会論』(日本経済評論社, 2003年)

■山本 一哉 (やまもと かずや)

- ①1966年・鹿児島市
- ②法文学部経済情報学科国際協力講座助教授
- ③国際経済論, アジア経済論
- ④「韓国における銀行再編」鹿児島県地方自治研究所『自治研かごしま』(No.78, 2003.8)
「沖縄・奄美群島の物流と自立化」『島嶼地帯の県境を越えた市町村合併に関する総合調査－奄美群島を事例にして(平成15年度文部科学省科学研究補助金/基礎研究(B)(2)/研究代表者: 山田誠)』(2004年3月)

■米田 憲市 (よねだ けんいち)

- ①1966年・神奈川県
- ②鹿児島大学法科大学院 助教授
- ③法社会学
- ④「事件管理データベースから見る阪神・淡路大震災被災者法律援助事業」 「阪神・淡路大震災被災者法律援助事業の特質」とともに『法律扶助事業への展望－阪神・淡路大震災被災者法律援助事業の分析から－』法律扶助協会兵庫県支部(ぎょうせい)(2003年1月)所収
米田憲市「일본의 "기업법무"의 전환점」(「企業法務の転換点」)(翻訳:곽희석) 대한민국의법사회학회편『회학연구』창간호(韓国法社会学会編『法社会学研究』創刊号)(2002年12月)

○編集後記

■ 表紙写真は、前号に引き続きStephen Cother先生（法文学部）よりご提供いただいたものです。中央の大島海峡を挟んで、左右には、それぞれ加計呂麻島の実入、西阿室の風景を入れました。

私事ですが、本誌編集のお手伝いをするようになり、少しずつではありますが、奄美に対する知識や関心が増してきています。1月の公開シンポジウムで初めて奄美を訪れた時からは、想像もつかなかった変化です。

立て続けに来襲した台風16号・18号によって、奄美を始め各地で甚大な被害が出ました。胸が痛む思いです。被災された皆様の、一日も早い復興を祈念いたしております。（I）

第2回シンポジウムは沖永良部・和泊町で

本年1月31日に開催された公開シンポジウム「新しい奄美世界の創出」は、予想以上の盛会となり、秋にはシンポジウムの記録をまとめた本の出版も予定されています。第2回目のシンポジウムも、奄美群島で開催する方針でプロジェクト研究を進めていますが、開催地を沖永良部島の和泊町とすることに決定し、和泊町役場をはじめとして現地の方々との最初の打ち合わせを行いました。開催時期は11月後半を予定しており、取り上げるテーマについては、農業、自立のための新しい産業、歴史と文化、などの領域について、現地の方々からのご意見なども踏まえながら、これから明確にしていく予定です。具体的な日時、会場、テーマや講師についてお知らせできるよう、事務局を中心に準備作業を進めます。第1回目のシンポジウム同様、多くの方に関心を持っていただける企画を練っていきたいと思います。

（本プロジェクト事務局長 平井一臣）

研究責任者 山田 誠

奄美ニューズレター

発行 鹿児島大学

編集責任者 萩野 誠

AMAMI News Letter

印刷 南日本共同印刷株式会社